

2019年3月7日

PRESS RELEASE

名古屋教育医療記者会、名古屋市政記者クラブと同時発表

名古屋市長立大学事務局企画広報課広報係
〒467-8601 名古屋市長穂区穂穂町字川澄1
TEL:052-853-8328 FAX:052-853-0551
MAIL: ncu_public@sec.nagoya-cu.ac.jp
HP URL : <http://www.nagoya-cu.ac.jp/>

子宮内膜症および習慣流産の既往歴が 静脈血栓塞栓症の新たな危険因子であることが明らかになりました

研究成果は、国際科学雑誌「Thrombosis and Haemostasis」に
2019年2月5日掲載

公立大学法人名古屋市長立大学（以下「名古屋市長立大学」という。）では、環境省及び国立研究開発法人国立環境研究所（コアセンター）をはじめ、全国15大学・機関（ユニットセンター）とともに、子どもの発育や健康に影響を与える化学物質等の環境要因を明らかにし、次世代の子どもたちが健やかに育つことのできる環境の実現を図ることを目的として、「子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）」を行っています。

今回、平成28年4月に固定が終了した約10万人を対象として、日本人の妊娠中の静脈血栓塞栓症の頻度と危険因子について調べました。

その結果、日本では静脈血栓塞栓症の頻度はおよそ7.5人/1万妊娠であり、欧米と同等の頻度が確認されました。また、子宮内膜症、習慣流産の既往歴が、静脈血栓塞栓症の新たな危険因子であることが明らかになりました。さらに、切迫流産、切迫早産、早産、帝王切開術は、これまでの報告と同様に、日本人にとっても危険因子であることがわかりました。

ポイント

- 子宮内膜症および習慣流産の既往歴が静脈血栓塞栓症の新たな危険因子であることが明らかになりました。
- 日本人の妊娠中の静脈血栓塞栓症の頻度について調べました。
- 静脈血栓塞栓症の危険因子について調べました。
- 日本では静脈血栓塞栓症の頻度はおよそ7.5人/1万妊娠であり、欧米と同等の頻度が確認されました。
- 国外の先行研究の結果と同様に、切迫流産、切迫早産、早産、帝王切開術は、日本人にとっても静脈血栓塞栓症の危険因子であることがわかりました。

*本研究は環境省の予算により実施しました。本発表の内容は、すべて著者の意見であり、環境省の見解ではありません。

【研究の背景】

子どもの健康と環境に関する全国調査（以下「エコチル調査」という。）は、環境が子どもの健康にどのように影響するのかを明らかにし、子どもたちが安心して健やかに育つ環境をつくることを目的に、2010年度に開始された大規模かつ長期に渡る調査です。胎児期から小児期の環境因子が、子どもの健康と成長にどのように影響するかを、参加する子どもが13歳になるまで追跡調査します。調査期間は5年間のデータ解析期間を含み、2032年度までを予定しています。エコチル調査は、全国15大学・機関のユニットセンターで実施され、東海地域では名古屋市立大学が調査拠点となっており、各関係機関が協働して実施しています。

血流が悪くなったり、血液が固まりやすくなったりすると、血管の中に血栓ができることがあります。手足の静脈に血栓ができた場合を「深部静脈血栓症」と呼び、できた血栓が肺の動脈に詰まる場合を「肺塞栓症」と呼びます。これら「深部静脈血栓症」と「肺塞栓症」を合わせて、「静脈血栓塞栓症」と呼びます。

我が国において血栓症はこれまで、比較的稀であるとされてきましたが、生活習慣の欧米化などに伴い近年増加傾向にあるとされています。特に、妊娠時は、妊娠していない時に比べ、発症のリスクが高まりやすいとされています。

しかしながら、我が国における血栓症に関する研究は十分に蓄積されてきたとは言えず、とりわけ、妊婦の方の経過を追跡していく大規模調査において、日本人の妊娠中の静脈血栓塞栓症の頻度や、静脈血栓塞栓症の発症に関わる要因を調べた研究は行われおりません。そこで我々は全国10万人の妊婦の方に協力をいただき、妊娠中の静脈血栓塞栓症の頻度や、静脈血栓塞栓症の発症に関わる要因について検討しました。

【研究内容と成果】

本研究では、エコチル調査における103,070妊娠のデータを用いて、静脈血栓塞栓症の頻度を調べました。また、年齢、BMI、既往歴、既往妊娠、生活習慣、妊娠合併症などのうち、どの要因が静脈血栓塞栓症の発症に関わるのかについて調べました。

その結果、日本では静脈血栓塞栓症の頻度はおよそ7.5人/1万妊娠であり、欧米と同等の頻度が確認されました。また、子宮内膜症、習慣流産の既往歴が、静脈血栓塞栓症の発症に関わる新たな要因であることが明らかになりました。さらに、切迫流産、切迫早産、早産、帝王切開術は、これまでの報告と同様に、日本人にとっても危険因子であることがわかりました。

以上の結果から、子宮内膜症、習慣流産、切迫流産、切迫早産、早産、帝王切開術は静脈血栓塞栓症の危険因子となりうるため、妊娠中及び産褥の血栓予防のために注意を払う必要があるといえます。

【発表論文】

題名：Endometriosis and recurrent pregnancy loss as new risk factors for venous thromboembolism during pregnancy and postpartum: the JECS birth cohort

著者名：Mayumi Sugiura - Ogasawara¹, Takeshi Ebara², Taro Matsuki³, Yasuyuki Yamada⁴, Toyonori Omori⁵, Yosuke Matsumoto⁶, Sayaka Kato⁷, Hirohisa Kano⁸, Takahiro Kurihara⁹, Shinji Saitoh¹⁰, Michihiro Kamijima¹¹, and The Japan Environment Children's Study (JECS) Group¹²

¹ 杉浦（小笠原）真弓：名古屋市立大学

² 榎原 毅：名古屋市立大学

³ 松木太郎：名古屋市立大学

⁴ 山田泰行：名古屋市立大学（現所属：順天堂大学）

⁵ 大森豊緑：名古屋市立大学

⁶ 松本洋介：名古屋市立大学

⁷ 加藤紗耶香：名古屋市立大学

⁸ 加納裕久：名古屋市立大学

⁹ 栗原崇浩：名古屋市立大学

¹⁰ 齋藤伸治：名古屋市立大学

¹¹ 上島通浩：名古屋市立大学

¹² JECS グループ：コアセンター長、メディカルサポートセンター代表、各ユニットセンター長（2019年2月現在）

【掲載学術誌】

「Thrombosis and Haemostasis」

【お問い合わせ先】

《研究全般に関するお問い合わせ先》

公立大学法人名古屋市立大学大学院医学研究科産科婦人科学
教授 杉浦真弓

467-8601 愛知県名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄 1

T E L : 052-853-8241

E-mail : og.mym@med.nagoya-cu.ac.jp